

《履修上の留意事項》受講生は教科書を持参して講義に臨むこと。
初回の講義時にオリエンテーションを行うので履修者は必ず受講すること。

《担当者名》本家寿洋 honke@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

ディプロマ・ポリシー3に記載されている「作業療法士として必要な科学的知識や技術」を習得するための基盤科目である。作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。また、作業療法における共通の評価法を知り、以後の各評価学および評価学実習履修のための基盤を作る。

【学修目標】

各講義テーマと教科書の該当する章に記載されている一般（教育）目標（GIO）と行動目標（SBO）を適用する。よって受講生は教科書を持参して講義に臨むこと。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	作業療法と評価	評価とは、作業療法の実践過程、情報収集、面接、観察、評価の目的と意義、評価項目、評価の手順と手段、評価実施上の留意点	本家寿洋
2	作業療法と再評価、効果判定	評価のまとめと問題点の抽出、効果と成果、作業療法効果研究の現状	本家寿洋
3	記録・報告の意義と特徴	治療計画立案（治療目標の設定・治療計画立案） 記録、報告 国際生活機能分類（ICF）	本家寿洋
4	領域共通の評価法1	面接、観察	本家寿洋
5	領域共通の評価法2	[心身機能・身体の構造]	本家寿洋
6	領域共通の評価法3	[活動]日常生活活動、[参加]就労、興味、役割	本家寿洋
7	領域共通の評価法4	[QOL評価]	本家寿洋
8	まとめ	作業療法評価のまとめ	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100％）

【教科書】

必携のこと
能登真一 他 編 「作業療法評価学 第3版」 医学書院 2017年

【参考書】

日本作業療法士協会 「作業療法学全書 改訂第3版 第3巻作業療法評価法」 協同医書出版社 2009年
障害者福祉研究会 「ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改定版」 中央法規出版 2002年
厚生労働省大臣官房統計情報編 「ICF-CY 国際生活機能分類-小児・青少年に特有の心身機能・構造、活動等を包含-」 厚生統計協会 2010年
上田敏 「ICF(国際生活機能分類)の理解と活用-人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか」 きょうされん 2005年

【学修の準備】

1. 次回の授業範囲をキーワードや修得チェックリストを中心に事前に予習すること（80分）。
2. 復習は教科書の行動目標が可能となるように自己学修すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。